

「March のはなし」

学校長 笠原 究

温暖化のせいでしょうか、今年は2月半ばには気温が10度近くまで上昇する日もあり、すでに3月のような風情が感じられました。3月を英語で言うと March です。March は古代ローマの言語であるラテン語の Martius(マルティウス)から生じた言葉で、Martius は戦いの神様、Mars(マルス)から来ています。

3月に軍神マルスの名がつけられた理由は、古代ローマの軍隊と深い関わりがあります。古代ローマは農耕のできる土地の拡張を求めて、常に周辺の部族と戦いを続けておりました。しかし軍隊を動かさなくなる冬は、戦いをやめ、軍隊を休ませていたのです。3月になると再び軍隊を動かし始めるので、軍神マルスの名前が付けられたと考えられています。「マーチったらちったかたった、行進だ」という歌にあるように、march には行進するという意味があります。軍隊が整然と行進する姿を思い浮かべてもらえば、この意味が派生してきたことも理解していただけるのではないのでしょうか。

英語で火星のことを Mars という通り、軍神マルスは火星と深いつながりがあります。その姿が赤く見えることから、火星は戦いの神様と結び付けられてきました。ギリシャ神話における戦いと破壊の神アレス(Ares)も、バビロニア神話の戦争と疫病の神ネルガル(Nelgal)も火星の名を由来としています。残念ながら現在も、戦争による行軍が絶えることはありません。ウクライナ、パレスチナのガザ地区、イエメン、ミャンマーなど世界のあちこちで戦乱の火はやまず、多くの市民が犠牲になっています。



しかし人間は戦いのためだけに行進してきたわけではありません。平和のために行進をする人々も数多くいます。1963年8月、アメリカの首都ワシントンで20万人以上の人々を集め、人種差別撤廃を求める行進が行われました。いわゆる「ワシントン大行進(March on Washington for Jobs and Freedom)」と呼ばれる人種差別への抗議デモ集会です。その先頭に立ったのがキング牧師(Martin Luther King, Jr.)で、有名な“I Have a Dream”という演説を行いました。以下はその一説です。

I say to you today, my friends.

And even though we face the difficulties of today and tomorrow,

I still have a dream. It is deeply rooted in the American dream.

I have a dream that one day this nation will rise up

and live out the true meanings of its creed:

“We hold these truths to be self-evident, that all men are created equal.”

「今日皆さんに申し上げます。

我々は今日と明日の課題に直面しておりますが、

私にはまだ夢があるのです。それはアメリカの夢に深く根差した夢なのです。

私には夢があります。いつの日かこの国が立ち上がり、その信条の本当の意味を実現してくれることを。それは「すべての人間は平等である」ということなのです。」

暖かな日差しが感じられるようになる March に、争いのための行軍は似合いません。平和



への行進こそが3月の精神を体現するようになってもらいたいものです。附属小の子どもたちにも「平和への行進」ができる人になってもらいたいと願っています。それは必ずしも平和のためのデモ行進をするということではありません。人の話をよく聞き、まわりをよく見、物事をよく考えるということです。まわりの人への感謝を忘れず、毎日を平和に丁寧に生きる人になってほしいと思います。